●特集● 座談会

「with コロナ時代の学会開催について」

日時：令和2年12月7日(月)18時～　場所：特別応接室(新講義実習棟)

司会・まとめ	大阪医科大学　医学教育センター	専門教授	寺﨑　文生
出席者	大阪医科大学　内科学II教室	教授	樋口　和秀
	大阪医科大学　皮膚科学教室	教授	森脇　真一
	大阪医科大学　医学教育センター	専門教授	瀧谷　公隆
	大阪医科大学　一般・消化器外科学教室	診療准教授	廣川　文鋭
	大阪医科大学　リハビリテーション医学教室	教授	佐浦　隆一
	大阪医科大学　救急医学教室	教授	高須　朗

(開催予定日順・敬称略)

左より、瀧谷先生、佐浦先生、樋口先生、寺﨑先生、高須先生、森脇先生、廣川先生。

●特集● 座談会　「with コロナ時代の学会開催について」

寺﨑　本日はご多忙のところ大阪医科大学医師会座談会「withコロナ時代の学会開催について」にご参集いただきまして誠にありがとうございます。本日、司会を担当させていただきます、医学教育センターの寺﨑です。よろしくお願いします。

折しも、いわゆる第三波が到来しておりまして、大阪府では12月4日から非常事態宣言、赤信号というのが発出されている時期の座談会開催となっております。本学でも教職員と学生に少数の陽性者が出ているというように聞いております。本日は、マスク、消毒、換気、ディスタンス等、感染対策に十分注意を払わせていただいて、対面で座談会を開催させていただくことになりました。どうぞ宜しくお願いしいたします。

それでは最初に、簡単な自己紹介をお願いします。

樋口　第2内科の樋口です。我々が開催させていただいたのは第99回日本消化器内視鏡学会総会です。

高須　救急医学教室の高須です。私たちは第29回日本熱傷学会近畿地方会で、総会ではないのですが、担当させていただきました。よろしくお願いします。

森脇　皮膚科の森脇です。第44回日本小児皮膚科学会学術大会を担当する予定です。来月開催予定です。

廣川　一般・消化器外科の廣川です。よろしくお願いします。我々が開催させていただいたのは第82回日本臨床外科学会総会で、会長は内山和久です。

佐浦　リハビリテーション医学教室の佐浦です。よろしくお願いします。私が担当しましたのは第4回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会です。

瀧谷　医学教育センターの瀧谷です。日本レチノイド研究会学術集会を10月17日に、学内で開催させていただきました。

寺﨑　第40回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会というのを主催させていただきました。医学教育センターの寺﨑です。よろしくお願いいたします。

それでは、先生方は学会の中心となられる方ですので、苦労した点、良かった点、得られた点等々について、主催された立場からお話を伺い、それを共有して全体の質疑応答ができればと考えております。

第99回 日本消化器内視鏡学会総会
令和2年9月2日(水)～ 9月3日(木)

樋口　日本消化器内視鏡学会というのは、会員数が35,000人くらい。消化器系では1か2番目に大きな学会です。本来なら5月22日～24日の三日

樋口 和秀先生

間、京都国際会議場で行う予定でしたが、非常事態宣言が出て行えなくなりました。事前に、行えなくなる可能性があるのでどうしようかと、ひとまずは三日間で行える場所を探したんですが、場所を変えると、キャンセル料を払って新たにお金を払うということで、その段階ではおそらく無理だろう、赤字になるということで、京都国際会議場で空いている日を探してもらったら、たまたま9月2日～3日の二日間だけしか空いていないというので、それならコロナがどうなっているかはわからないけれども、一応その日をおさえようということになりました。三日間を二日間に縮小開催することになりましたが、海外の先生方が来られるインターナショナルセッションは縮小し、一部分はスライドを送ってもらって参加してもらうというように考えました。プラスαで、やむなく一般演題やポスターを全て誌上発表にしました。その結果、三日間を二日間に縮めることができました。

それまでの7月、8月度の色々な学会の動きを見ていると、ハイブリッドで行なっている学会もあったので、一応ハイブリッドで行おうということになりました。学会業者も経験を積んできているので、おそらくZOOMなどで行えば、そんなに苦労はしないだろうということで、経験のある会社に頼んで、ミスのないようにやってもらったというような感じです。現地参加者が約650人で、WEB参加者が約6,800人ぐらいになっています。

もう一つの特徴は、オンデマンド配信を約一ヶ月間行ったことで、これはコロナの影響での良い点ですよね。今までなら隣の会場で同じ時間に行っているものは聞けない等々のことが全てこれで解消されて、いつでも好きな時に視聴できるということで、これは大きなメリットになりました。ただ、スポンサードのランチョンセミナーとかモーニングセミナーというのは全て規約上ライブでなければだめなので、その場限りの講演になります。しかし、通常であれば100人入ったらいいところが200人ぐらい視聴されている。本当に聞いているかどうかはわかりませんが、予想外に多くの先生方がアクセスしているということで、これも良い点のひとつに

高須　朗先生

なったかと思います。最終的には三日間を二日間にしたことと、オンデマンドは参加費を払わなければ見られないので、参加費が増えたということと、宴会がなくなったのでそのあたりの経費が節約されたので、トータルの経費はマイナスにはなっていません。

寺﨑　ありがとうございます。樋口先生のところは本当に大きな学会で、参加人数も多く、ハイブリッドとオンデマンドの両方で行われ、大変だったでしょうが、相当うまくやられたということですね。

では高須先生。オンサイトでの予定をされていますよね。

▶ 第29回 日本熱傷学会近畿地方会
令和3年1月16日（土）

高須　はい、その予定を立てていたのですが、先週一週間の状況で、大阪では医療緊急事態宣言が出され、医療崩壊等などまずい状況を肌で感じていましたので、学会の世話人代表と相談し、現地開催の中止を決めたところです。私たちの学会は全国規模の参加者が一万人近くなるというようなものではなく、参加人数が100人くらい。かなり小回りがききますし、学会業者は入れず、すべて手作りで準備しましたが、それでもコストをかけるところにはかけるようにしています。開催か中止かどちらになっても対応できるよう、ギリギリまで待って抄録を刷り準備はしていましたが、現地開催中止と決定しましたので、誌上開催とすることにしました。会員すべてに抄録を送ることで、

学会そのものは成立しています。参加会員は100名くらいですので、全員に参加証も送って、参加したことになるようにしました。そのあたり、一週間くらいで親学会や地方学会との話し合い等、調整は大変でしたが、こういう形で可能だということになりました。どんな形であれ、開催したということであれば、専門医更新などのクレジットとして認められるので、そういう形で開催することにしました。会場もおさえていましたし、準備も整い、あとは開催するだけという時点での判断は迷いましたし、難しい決断でした。

中止決定後すぐ、演題登録をしてもらった先生方にメールで連絡しましたが、予期していなかったこととして、演題を取り下げたいという申し出がありました。地方開催ですが、発表したことになると、他の学会で発表ができなくなりますので、そのあたりの手続きや調整が少し面倒でした。いずれにしても100人規模の小さな学会ですので、迅速に対応もできたと思います。残念ですが、誌上開催にしてオンサイトは中止としました。

寺﨑　オンラインでもされないということですね。

高須　そうですね。オンラインもコストがかかりますし、こういう形で可能だというお墨付きもいただきましたので、一番楽な方法でといいますか、誌上開催のみということになりました。

寺﨑　ありがとうございます。それでは森脇先生、お願いします。

森脇 真一先生

第44回 日本小児皮膚科学会学術大会
令和3年1月9日(土)～ 1月10日(日)

森脇　我々は、第44回日本小児皮膚科学会を開催させていただきます。当初は7月11日～12日に千里ライフサイエンスセンターで行う予定だったんですが、コロナ禍の影響で1月9日～10日に延期しまして、大阪国際交流センターでの現地開催を予定しておりましたが、第二波の影響でこれも中止し、完全Web開催へ変更しました。開催形式はオンラインで、スポンサーも一般も含め、全てライブで行う予定です。日程変更等、その都度、理事会にかけて変更をお願いするのも大変でしたし、変更の度にキャンセル料もかかりますので、デッドラインとの戦いだったんですが、最初の会場はキャンセル料は無しにしていただきましたが、二つ目の会場には100万円のキャンセル料を支払いました。

最初、Web開催に対する不安がありましたが、6月に東京で行われた日本皮膚科学会総会が完全にWeb開催で大成功を収めたので、いけるのではないかと自信が持てました。苦労した点は、企業展示が全てキャンセルになってしまいましたので、若干収益が落ちたということもあり、スポンサーセミナー会場の大きさの違いによる値引も不安だったんですが、交渉して、全て同じ価格でやっていただくことになりました。業者もWEB開催に強いところだったので、安心して任せられ、意外とWebの方が楽なのではと思いました。

樋口先生もおっしゃっていましたが、会場招宴会も懇親会もないですし、これには結構予算を食うのですが、それもなく、会場費もキャンセル料はかかりましたが、Web開催ではほぼ必要ないの

で、予算的には少し黒字にできるのではと、予想しています。

まだ開催していないわけですが、皮膚科学会では女性も多く、Webですと自宅で子どもの面倒をみながら、講習会単位をとれるということ、混んでいる会場では見づらいこともあるパワーポイントも見やすいというので、一般的にWeb開催は皮膚科関係では好評です。男性からは懇親会等がないので若干物足りない等、色々な意見が出ています。

本当は現地開催がいいでしょうが、Webでも結構、きちんとできるのかなというのがあります。ハイブリッドはかなり現場の料金がかかるのと、現地開催の費用もかかるので予算的にはなかなか、参加者の多い学会ではいいかもしれませんが、私たちは700人規模の学会の主催なので、ハイブリッドは赤字になる可能性が高いように思います。これからどうなっていくかはわかりませんが、今後は現地とWebとの混合になっていくのかなと。まだ学会を開催していないので、結果はわかりませんが。

寺﨑　ありがとうございます。今のお話に関連して、樋口先生にお聞きしたいのですが、ハイブリッドは、現地の費用にオンラインの費用も必要なわけですが、予算的にはいかがでしたか？

樋口　黒字になっているんです。それは三日間のスポンサードのセミナーを二日間に全部入れてしまったので、スポンサーからの収入は減っていないのと、参加者もいつもよりプラスになっているということ、宴会がなくなったことで出費が減ったこと等が要因にありますね。

廣川 文鋭先生

寺﨑　ありがとうございます。では廣川先生、お願いします。

第82回 日本臨床外科学会総会
令和2年10月29日(木)～ 10月31日(土)

廣川　日本臨床外科学会は、参加人数が6,000から7,000くらいの学会でして、10月29日～31日の予定で行いました。まず、演題募集の時期が、ちょうど4月のコロナ禍でワイワイ言われている時期でしたので、毎年の演題登録数は3,500～4,000ですが、他の施設の先生にお願いするのもはばかられ、まぁどうしようかと思いながら、最終的には2,200くらい集まったんですけども、大変気をもみました。また演題募集が終了した6月頃は、誌上開催、完全WebとHybrid(現地+WEB)の3つを見据えていました。当初、誌上開催自体は外科系でいうと東日本大震災の時に行った前例があったので一番の候補でしたが、慶応大学が夏に第120回外科学総会の記念大会を横浜で完全Webで大々的に開催したこともあって、誌上開催というのは何となく無しという雰囲気になり、完全WebかHybridかということになりました。学会業者との話で、準備の都合上、三ヶ月前には決定する必要があるということでしたので、ギリギリまで考えたあげく、全部借り切っていた大阪国際会議場の大半をキャンセルして、ワ

ンフロアを基地局とした完全Webでの配信としました。ちなみに大阪国際会議場のキャンセル料は1,000万円くらい取られました。

となれば、次に心配するのは費用のことで、専門医制度が学会自体になく評議員会だけなので、どれくらい人数が集まるのか全くと言っていいほど予想がつきませんでした。ただ、海外招聘を呼ばない、宴会料がなくなるということでもありましたが、慶応がすごく派手に行っており、ライブ配信基地もトラブルに備え1つのセッションにブースを2つ用意したというような噂も聞いていたので、お金がいくらかかるのか…。学会業者も慣れてきたとはいえ、なかなか見積もりが…集まるお金もわからないし、出ていくお金もわからない状況でしたので、本来ならセッション数としては320くらいを予定していたんですが、絶対赤字は出さないということで、最終90セッションとすごく縮小して開催することになりました。しかし、蓋を開けてみたら黒字でしたので、これならもっとセッション数を増やせたのにというのが、一番の後悔というか残念であった点です。

Web開催の短所としては、慣れていないのでディスカッションとか、発表などが上滑りな感じで、やはりフェイストゥフェイスの方が良いように感じました。良かった点は、他の先生方もおっしゃっていましたが、気に入ったものは何回も見られるし、同じ時間帯のものも後で見返すことができたり、現地にいかなくてもどこででも見られたりというのは非常に好評でした。参加者、演者からの意見は、前に述べたように、開催数が少なかったので、シンポジウムなど上級演題だけでも、全部やってほしかったという意見が多かったです。提言としては意外とWebでもいいとは思いましたが、個人的にはやはり大きな学会はフェイストゥフェイス+WEB配信で、こじんまりした学会・研究会はWEB開催が良いかなというところです。

寺﨑　ありがとうございます。確認ですが、当日は全部ライブで、それを録画したものをオンデマンド配信されたということでしょうか。

廣川　当日の90の上級演題と若手の研修医のためのセッションはライブで行いまして、上級演題のライブのみ録画したものをオンデマンドで配信しました。一般演題等は事前登録したものをオンデマンド配信しました。

寺﨑　ありがとうございました。廣川先生のところも大きな学会で、大変だったと思うんですが、なかなかうまくやられたということですね。では、佐浦先生にお願いします。

▶ 第4回 日本リハビリテーション医学会 秋季学術集会
令和2年11月20日(金)～ 11月22日(日)

佐浦　会期中の11月20～22日まで神戸国際会議場・展示場でのライブ講演とインターネットライブ配信を行いました。また、ライブ講演を録画して20日の夜から30日までオンデマンドで配信しました。

佐浦 隆一先生

配信用のサーバーの契約が月単位であったこと、12月末までオンデマンド配信すると冗長すぎるのではという懸念もあり11月末日でオンデマンド配信を終了しました。

日本リハビリテーション医学会の学術集会には会員全員が参加する春季学術集会とリハビリテーション科専門医が中心となった秋の専門医会学術集会がありましたが、専門医会学術集会が秋季学術集会に改称されましたので、今回は4回目になります。

春季は第57回でしたので、もう50年以上にわたって学術集会が開催されています。令和2年の春の学術集会は、開催予定が新型コロナウイルス感染症拡大により本来の6月から8月に延期されました。4月当初は新型コロナウイルス感染症の状況がどうなるのか不明でしたが、私は11月ごろの学術集会の現地開催は難しいのでは?と考え、5月の連休明けには日本リハビリテーション医学会理事会に現地開催とインターネット配信を併用したハイブリッド形式で学術集会を開催したいと提案しました。その時に一番懸念されたことは、専門医取得や維持に関わる研修会の受講単位をWeb開催でも認定をしてもらえるかどうか ?ということでした。それも理事会で審議していただき、同時に日本リハビリテーション医学会の会員には整形外科の先生方も多いので、日本整形外科学会の研修単位もWeb開催で認定してもらえることを確認した上で、ハイブリッド開催に舵を切りました。また、初めての試みであり収支が読めなかったので、赤字の場合の対応も理事会にお願いして理事長からの同意を得て学術集会のハイブリッド開催の準備を進めました。ですので、日程は元々予定していました11月20日～ 22日です。ただ、録画した講演のオンディマンド配信を追加で計画しましたので、会期自体は11月末まで延長しています。

日本リハビリテーション医学会の会員数は1万人強です。6月から8月に延期された春季学術集会は京都で同じようにハイブリッド形式で開催されました。最終4,000名の参加登録がありましたが、

現地参加は4日間で800名でした。今回の秋季学術集会は最終的に3,000名の参加登録があり、3日で700名の参加でしたが、現状、1,500万円程度の赤字になりそうです。会場を借りましたし、Web配信の費用がかなりかかりました。しかし、ライブ講演の配信だけでなく、その録画を時間をずらしてオンデマンドでも視聴できましたので、参加された皆様には非常に好評でした。

ポスター発表はデジタルポスターの閲覧だけにして、ZOOM会議室を使って30分の小部屋を沢山つくり、そこに、ポスター発表者とディスカッションしたい人に参加してもらって、30分間、自由に討議してもらいました。また、樋口先生が仰ったように夜は宴会などがありませんので、皆さん、時間を持て余して暇になるんですね。新型コロナウイルス感染症のことがありますから、集まって食事という訳にもいきませんので、私が司会となり理事長と今春の学術集会会長、来春の学術集会会長の4人で今後のリハビリテーション医学・医療を熱くディスカッションしたり、学術集会開催にまつわる苦労話や愚痴を語り合うナイトセッションほか、いろいろと企画しました。

寺﨑　ナイトセッションはZOOM会議のようなかたちでされたのですか。

佐浦　そうです。ZOOM会議室で4人が集まって好き勝手に話をしました。過激な発言もありましたが(笑)、好評でした。それから、日本リハビリテーション医学会にはリハ女医ネットワーク(RJN)

という女性医師が集まったグループがありますので、そのグループにもZOOM会議でライブ座談会をお願いしました。その録画もオンデマンドで配信しましたので、多くの方に視聴していただき、「面白かったね。」と好評でした。

寺﨑　ありがとうございました。色々面白い企画を考えられて…。

樋口　赤字の1,500万円はリハビリテーション医学会が補填したんですか。

佐浦　理事長からは赤字も許容していただいておりますが、現時点では研修単位数が確定しておりませんので、ひょっとしたら最終的に黒字になるかもしれません。余談ですが、春に開催された日本整形外科学会学術集会での研修単位数は23万単位だったと伺いました。1単位1000円ですので、結構な収入だと思います。今回の学術集会でも、総研修単位数が1万単位から2万単位に増えれば、収益も1,000万円改善しますが、まだ、今のところは未確定です。廣川先生の学術集会も最終的には黒字になっていたんですよね。

廣川　えぇ、若干ですが黒字でしたので、佐浦先生の赤字の額をお聞きして、どれくらいの数のセッションをされたのかと思っていたんです。

佐浦　セッションの数はそれほど多くありません。現地では8会場ぐらいです。当初の予算は7,500万円～ 8,000万円ぐらいでしたが、ハイブリッド開催となりWeb配信のシステムを入れたら9,500万円ぐらいに膨らみました。会場は全館割引で借りていますので、会場の一部だけをキャンセルしてもあまり節約にはなりませんでした。広い会場で3密を避けて学術集会を行うことを求められましたので、結局、全館使うことになりました。最終の収支はもう少し待たないとわかりません。

寺﨑 文生先生

第40回 日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会
令和2年10月30日(金)～ 10月31日(土)

寺﨑　大きな学会のお話をお聞きして、勉強になりました。私の日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会は会員数が1,000人に満たないくらいの小ぶりな学会です。普段の参加者も300人程度です。第40回になる今回の学会は、当初オンサイトを予定していましたが、やはり全てオンラインでやろうということに決めまして、ライブは共催セミナーだけです。あとのシンポジウムとか特別講演、会長講演等々は、事前に収録しました。その日に限らず、座長や演者の都合を聞いてこの日に集まろうと、一か月ぐらい前から準備しまして、順番にズームで収録していって、それをオンデマンドであげたということです。一般演題等々に関しては、スライドをあげていただいて、それを出しました。オンデマンド配信は三週間ぐらい取りまして、10月30日から配信し始めて11月20日まで配信しております。だいたい小ぶりな学会なので、学会業者とのやりとりも密にできたので、小回りがきいた点は

ありました。ちょっと苦労した点というのは、座長や演者の日程調整ですね。クレームとまでは言いませんが、少し手間取りました。

それから専門医制度がないので、どれだけ参加してもらえるか、予算的な面で参加者数が心配でしたので、事前に一生懸命声をかけまして、ちょっとは黒字になったというところでした。あと私のところは小回りがききますので、理事会、評議委員会、各種委員会の開催と実際の運営をどうするかというのを相談しまして、理事会、評議委員会、各種委員会については本部の事務局にメール等で対応していただいて、私は実際の学会の学術的なところだけを一生懸命やらせていただきました。

メリットは、先生方がおっしゃったことと同じになります。あえて言うなら、事前収録をしておりますので、その学会収録DVDを作成するのがかなり楽ですね。それを作って、事前登録していただいた人には配布できるようになっています。私の方も比較的、予想よりは参加者の評判もまずまずで、良かったようです。

では、瀧谷先生は現地開催をされていますので、そのあたりの経験談等のお話をお願いします。

第31回 日本レチノイド研究会学術集会
令和2年10月17日(土)

瀧谷　会員数は150人程度の学会です。本研究会は基礎医学系であり、出席者の大半は薬学、理学系の先生です。元々は10月17日～18日の二日間の開催を一日としました。緊急事態宣言が終了した6月の幹事会で最終的に日程を決定しました。幹事が対面形式の開催を希望されたことと、その頃大阪医科大学の新型コロナウイルス感染症対策の基本方針として、学内での学会開催は許可が下りるということで、限定付きではありましたが、それに則って現地開催としました。かなり希望的な観測で、10月にはコロナ禍も落ち着くだろうということで、現地開催に踏み切りましたが、結果的にそうなりました。毎年行っている外国人招聘は中止して、国内からの講演のみとしました。感染予防対策につきましても、三密回避の対策のほかに、健康調査票を参加者全員に渡して、開催前後の二週間の健康チェックをお願いしました。このような形式で現地開催をしましたところ、対面ですので参加者の評判も非常に良かったです。この時期に現地開催の学会に参加された方は少なく、本研究会が今年の初めての現地開催という方が多かったので、喜んでいただけたようです。

瀧谷　公隆先生

これからのことを考えますと、このような対面開催だけでは非常に難しいと思いますので、ハイブリッド形式の開催が主流になると思いますが、小規模の研究会にとっては、経費面等が難しいのでないかというのが今回の感想です。

寺﨑　ありがとうございます。オンサイトで開催されたのは瀧谷先生のところだけかと思いますが、特に苦労された点とか、企業展示等はどんな感じでし

たか。三密の回避等についてもいかがでしたか。

瀧谷　基本的に企業展示はありません。感染対策については、スタッフも参加者も慣れていますし、大きな問題もなく、スムーズに対処できていたと思います。

寺﨑　ありがとうございました。一通り、各学会の状況と経験談をお話しいただきました。参考になったところなど、色々あったと思いますが、何かお聞きになりたいことなどがあればどうぞ。

ハイブリッドとWeb開催。形態によるメリットとデメリット。

廣川　佐浦先生のところはハイブリッドですか。

佐浦　ハイブリッド形式での開催です。現地会場での講演では、演者や座長の先生をWebカメラで撮影しながら、スライドはZOOMで共有して、動画配信サイトのVimeoを経由して全国にお届けしました。

廣川　これからの一年も同じような感じだと思うのですが、どうでしょう。ハイブリッドと完全Web開催と、どちらがいいでしょうね。

佐浦　自分がプレゼンターとしてはハイブリッドがいいです。というのは、ハイブリッドというか、つまり観客が前にいないとうまくしゃべれないんです。

廣川　そうですよね。熱が入らないというか。

佐浦　部屋でWeb用に収録すると、ただ原稿を読んでいるだけになり、すごく単調です。現地で聴衆を前にライブでの講演を配信する、離れていてもスライドはZOOMで配信しながら、音声はライブ感たっぷりに聴けるのがいいと思います。

Vimeoのチャットに打ち込むと質問やコメントは座長のところに届きます。座長が質問やコメントを選んで、演者に質問します。現地会場では参加者がスタンドマイクの前で質問やコメントします。全会場で映像を配信するとカメラなど複数の設備が必要になり費用もかかりますので、演者や座長の映像配信はメイン会場だけにしました。残りの会場では机の前のWebカメラで座長と演者、ZOOMでスライド映写といった体裁でした。外部から聴講している人は座長と演者の顔、スライドしか画面に映りませんので、会場全体の様子はわかりませんが、臨場感は十分でした。

廣川　現地には何人くらい参加されましたか。

佐浦　初日が200名、2日目が300名、最終日が200名です。8月に延期して開催された春の学術集会は4,000名登録、4日間で2割の800名が現地参加でした。今回は3000名登録で同じく2割強です。会場が春の学術集会よりも小規模ですので、少し会場の参加者が多いかな?という感じがありました。8月の京都の学術集会では会場は本当に閑散としていました。

樋口　二日間で約650人でした。9月の開催時には、マイクは置かずにチャットでの質問だけにしました。ただ、それから以降の学会を見ていると、マイクは置いてあって、しゃべった後はすぐに消毒したりとか、ボックスみたいな中で質問したりとかで、いろいろ工夫されてきました。議論を活発にするためには、マイクは用意した方が良いと思うし、チャットは若干遅れるので、それでは次の演題にいきますと言った頃に質問が送られてくるというようなこともあるので、チャットでの質問は講演が終わるまでに送ってくださいということを必ず司会者からアナウンスしてもらう必要もありますね。

寺﨑　予算と感染予防対策が許せば、ハイブリットが良さそうですが。

樋口　秋に消化器系でJDDWという、5つの学会が集まるような大きな学会が神戸で行われたんですが、まず役員の人に当日神戸に来るかどうかというのを事前に予約してもらって、それで何人来るかがわかってから一般会員の事前予約で、当

日現地に来る人の人数はそこで制限をかけて、上限に達した時点でそれ以外の人は全部Web参加にしてくださいということでした。

たくさん集まる学会は、その会場の収容人数の半分以下ぐらいの参加者数に抑えるために、そういうやり方でしたね。Go Toトラベルを使って参加する人もいましたし、学会側もそれを使って招待者を呼んだら半額以下ぐらいなので、そのあたりは節約できたようです。

森脇　Web開催でセキュリティの問題はどうですか。私はまだ開催していないのですが、皮膚科では写真を出すことが多いので。以前、学会での写真をSNSに流してしまった人がいて問題になったことがありました。処罰の対象になりますしね。Webですとそのあたりのセキュリティがどうなっているか、わからないというのが不安ですね。ホームページ上でも禁止してはいますが…。

廣川　実際、画面のスクリーンショットは撮れますからね。学会側も注意喚起はしていますが…。個人のコンピューター上のことになると、わかりませんからね。

高須　基本、色々なルールは守ることです。出典元を明記するとかですね。

樋口　メーカーのチェックも厳しくなってきていて、みんなわかってきているとは思いますが。講演等の経験が少ない若い世代には上の先生がしっかりチェックしなくてはいけませんね。

瀧谷　Web開催やオンデマンド配信となった場合、実際、発表データの出し惜しみなど、データを控えることはあるのでしょうか。

寺﨑　学会のDVDを作成する際に、許諾を取らなければならないのですが、大事なデータは出したくないという方はいらっしゃいますね。今後オンラインやWebが広まると大事なデータは控えておこうというような傾向は出てくるかもしれませんね。

佐浦　実際、ライブ講演とオンデマンド配信では講演の内容を変えることもあると聞いています。

高須　佐浦先生のところはハイブリッドでしたよね。参加者が増えたら増えたで困るわけですよね。制限をされた学会もあったということでしたが。

佐浦　参加登録時にWeb参加か？現地参加なのか？を確認しました。8月の学術集会の様子から現地では最大1,000名位の参加者になるのでは？と予想していました。それであれば3蜜を避けて、全員が会場に入ってもらえることができました。また、会場には大きな休憩所を設けましたので、参加者が増えて現地で会場に入れない場合でも、休憩所でご自分のPCやタブレットからオンラインで参加していただくことを想定していました。よって、事前に参加者を制限することはありませんでした。

森脇　Web開催の良い点としては、現地開催ですと単位認定のある講習会ばっかりが混雑するというようなことがありますが、Webは人数制限もありませんからいいですよね。

樋口　内科系でいうと、教育講演会はWebになると思いますね。会場を借りなくてよいし、人数制限はないし、そういう傾向になっていくと思います。

森脇　そうですね。Web開催が増えていくようには思いますね。

●特集● 座談会　「with コロナ時代の学会開催について」

佐浦　今回はコロナ禍の最中での学術集会開催でしたので参加者数が読めませんでした。学術集会での取得研修単位の上限を増やしたり、オンデマンド配信で開催したりしましたので、取得された研修単位数は大幅に増えたと思います。しかし、結果的に今後の学術集会への参加のモチベーションが下がったのではないかと危惧しています。学術集会に参加して研修単位を取るというインセンティブがなくなってしまいますので…。

瀧谷　専門医の単位数を取得することができましたら、その後の学会には参加しないかもしれないですね。

樋口　色々反省点も出てきて、今後いろんな問題点を考えることになるでしょうね。

森脇　まだコロナ禍の初期でのことですので、今後は各学会も開催方法について統一化をはかっていくでしょうね。

寺﨑　みなさん、色々なご意見をありがとうございます。そろそろ時間になりました。

堅苦しくなりますが、本日の明るい話題の一つにですね、小惑星探査機「はやぶさ2」が無事地球に帰還しまして、オーストラリアで回収されて、早ければ今夜遅くに飛行機でオーストラリア出発して日本に向かうことになっているというようなことです。

大袈裟なことを言えば、世の中は科学技術の進歩や、AI等で進んでいますので、今後のアカデミアの世界でもですね、例えば学術講演会や学会活動もwithコロナの時代の中で、課題を見ながら、見据えながら、乗り越えながらやっていくということになるんじゃないかと思います。本日の座談会が、学会の意義やこれまでの学術集会開催のあり方を、ここで立ち止まって改めてみんなで見直す良い機会になったのではないかと感じております。

本日ご参集いただいた先生方のますますのご活躍をお祈りして、この座談会を終えたいと思います。本日はどうもありがとうございました。